

大学博物館共同企画シリーズⅡ

閉ざされた島 開かれた海

—鎖国のなかの日本—

会期／2012年6月2日(土)～8月4日(土)
主催／西南学院大学博物館 共催／神戸大学海事博物館
協力／船の科学館・海と船の博物館ネットワーク
神戸大会場：11月2日(金)～12月5日(水)



開催概要

古来より日本には海を通じていろいろな文物がもたらされた。前近代から海外との交流はもとより、国内の流通も船が担っていた。四面を海で囲まれた日本は、“海”と“船”とともに成長してきたといえる。特に17世紀初頭に確立された鎖国体制(海禁体制)は、国内における海路充実の一方で、異国船への対応を余儀なくされる。

本展覧会では江戸時代の海洋国日本を反映して描かれたもの。そして、当時の人びとが海や船に込めた想いなどを紹介する。あわせて当時の人が海を通じてもたらされた文物・文化とは何かについて歴史的に迫っていく。

なお、本展覧会は、“社会に開かれた大学”を具現化すべく大学博物館の共同事業として開催している。今回はシリーズ第2弾として、神戸大学海事博物館が所蔵する資料と本学博物館の所蔵資料とを融合させた「海」と「船」からみた日本」をテーマとした展覧会となった。両大学の研究成果や取り組みを、本展覧会を通じて発信していければと考えている。



◇展示構成

I. 近世日本の新時代

島原・天草一揆の終結がもたらしたのは“新時代”の幕開けだった。寛永鎖国令の発布のより南蛮の彩りあふれた時代から一変し、キリスト教が厳禁となる。さらに、日本に來航できる国もオランダ・中国とに限られたことで、日本は独自の文化を創出していくことになる。

III. 思いを込めた絵馬

海路の充実にもない、おおくの船舶が行き交った。船の寄港地は、賑やかな町に発展し、富を蓄えていくことになる。こうして多くの物資を運んできた船は“財福”の象徴として認識されるようになった。船への想いも強まることとなり、国内の船はもとより、南蛮船が行き来していた時代に思いをはせて、これを社寺に奉納する絵馬に託すようになったのであった。

II. 閉ざされた日本と航海技術の進展

寛永鎖国令により、オランダ人と中国人のみが日本での滞在を許されることになる。日本は舶来品や海外の情報を彼らを通じて入手するほかなかった。また、海路充実にもなって、航海技術も進展する。船上での快適さやお洒落を追求したものも造られるなど、趣向をこらしていった。

IV. 開かれた海—鎖国の終焉

1853(嘉永6)年、浦賀沖にペリーが率いるアメリカ東インド艦隊「黒船」四隻があらわれる。武力による開国をにじませながら交渉がおこなわれ、日米和親条約が締結させる。さらに、1858(安政5)年には、領事裁判権を認め関税自主権がない条約、「安政5ヶ国条約」を、米・英・仏・露・蘭と締結する。こうして、江戸幕府が堅持してきた鎖国体制が崩壊し、外国船が行き交う開かれた島国となった。

行事予定

2012(平成24)年

【企画展／特別展】

6月2日(土)～8月4日(土)
閉ざされた島 開かれた海 —鎖国のなかの日本—
[場所] 西南学院大学博物館1階特別展示室、2階講堂

8月7日(火)～10月10日(水)
シーボルト著「日本」に見る近世NIPPON
[場所] 西南学院大学博物館1階特別展示室、2階講堂

10月19日(金)～12月15日(土)
キリシタン考古学の世界—今日によみがえる祈りとさげび—
[場所] 西南学院大学博物館1階特別展示室、2階講堂

11月2日(金)～12月5日(水)
閉ざされた島 開かれた海 —鎖国のなかの日本— Part.II
[場所] 神戸大学海事博物館

【講演会】

7月14日(土)
春季特別展関連公開講演会
[場所] 西南学院大学博物館2階講堂
[講師] 安高 啓明氏(本学博物館学芸員)
「鎖国のなかの近世日本」
野村 昌孝氏(神戸大学准教授・神戸大学海事博物館専門員)
「神戸大学海事博物館コレクション紹介～海路図を中心にして～」

【せいなん子どもワークショップ】

6月23日(土) 10:00～12:00
地球儀をつくろう
[場所] 西南コミュニティセンター

9月29日(土) 10:00～12:00
みんなのせいなん水族館
[場所] 西南学院大学博物館

11月17日(土) 10:00～12:00
せいなんウォークラリー
[場所] 西南学院大学博物館

12月1日(土) 10:00～12:00
粘土を使った古代のモノづくり
[場所] 西南学院大学博物館

【その他】

10月20日(土)～22日(月)
日本考古学協会2012年福岡大会
[場所] 西南学院大学チャペル・大学2号館・大学博物館

その他、幅広いニーズに合わせて団体見学会等も実施しております。
なお、予定は変更することもございますので、ご了承くださいませようお願い申し上げます。

西南学院大学博物館

SEINAN GAKUIN UNIVERSITY MUSEUM

〒814-8511 福岡市早良区西新3丁目13番1号
TEL.092-823-4785 FAX.092-823-4786 / 博物館事務室
URL <http://www.seinan-gu.ac.jp/museum/>

●開館時間のご案内
開館時間 / 10:00～18:00(入館は17:30まで)
休館日 / 毎週日曜日、夏期休暇(8/10～8/16)
キリスト降誕祭[12/25]、年末・年始[12/28-1/5]
入館料 / 無料

来館者掲示板

チャペルで校歌と一曲だけ覚えていた讃美歌を唄いました。卒業生としてのほこりを刻めたひとときになり、ありがたかったと思います。(2012/2/18 男性 50代)

私は早稲田大学の学生の時、戸塚の友愛学舎で生活し、自由と自治の精神を学んだ。今は取り崩されてしまったが元の友愛学舎はヴォーリズさんの設計で、赤レンガで中が木の廊下と階段であった。このドージャー記念館に来ると、50年前の友愛学舎の生活が偲ばれて懐かしい。(2012/02/21 男性 70代)

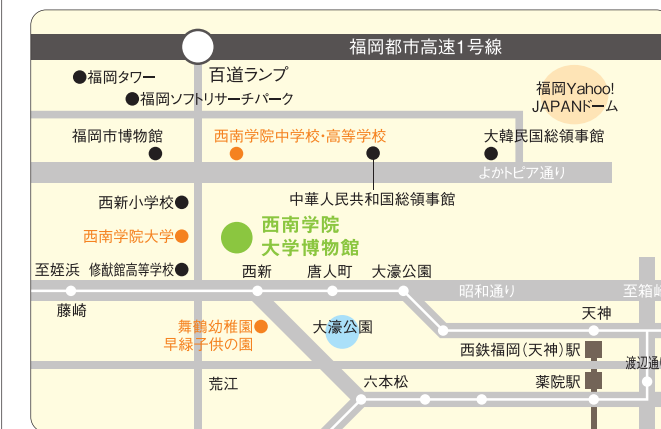
とてもきれいで趣があり、これぞ西南学院だと感じました。西南に入学したことを誇りに思います。(2012/04/06 女性 10代)

西南に入学して博物館はどんな感じなんだろうと思って行ってみたらとても趣があるところでした。(2012/04/11 男性 10代)

キリスト教がいづいている大学だと思いました。長い歴史があるのも初めて知りました。(2012/04/19 女性 10代)

新年度初の博物館ニュースということで、今回はご卒業そしてご入学を迎えた皆様を合わせてご紹介いたしました。当館が皆様の思い出の一ページとなることを、大変嬉しく思います。今年度もより多くの方々にお楽しみいただけるよう、精進して参る所存です。さて、現在当館では8月4日(土)まで春季特別展「閉ざされた島 開かれた海—鎖国のなかの日本—」を開催いたしております。ぜひ数々の貴重な資料に触れ、またご感想などお聞かせいただけたら幸いです。スタッフ一同、皆様のご来館を心よりお待ちしております。 博物館臨時職員 Y・A

アクセスマップ ACCESS MAP



福岡空港 → 西新駅下車 → 約17分
博多駅 → 西新駅下車 → 約12分
天神 → 西新駅下車 → 約8分
※地下鉄西新駅(3番出口)から徒歩5分
博多駅バスセンター → 修験館前 → 約35分
天神 → 修験館前 → 約20分
※修験館前バス停から徒歩5分
福岡空港(福岡都市高速・百道ランプ) → 大学 → 約25分
博多駅(福岡都市高速・百道ランプ) → 大学 → 約20分
天神(福岡都市高速・百道ランプ) → 大学 → 約15分

News

西南学院大学博物館ニュース

Volume 11 2012.6

西南学院大学



紅毛人プラケット
[西南学院大学博物館所蔵]

特集 近世日本を反映した長崎土産 紅毛人プラケット

博物館紹介◎ 建築様式

特別展紹介 閉ざされた島 開かれた海 —鎖国のなかの日本—

所蔵品紹介 紅毛人プラケット

大学博物館紹介◎ 秋田大学附属鉱業博物館

大学周辺情報◎ 季節を彩る憩いの場 本館前広場

SEINAN GAKUIN
1920

建築様式

本学博物館の入り口に立ち上を見上げてみると、玄関周りや軒下にクラシカルな装飾が施されていることに気づきます。軒下の装飾はコーニスといい、当館の建築様式であるジョージアン・コロニアル・スタイルの1つの特徴です。ジョージアン様式はイギリスの古典的な建築様式で、コロニアルとは、植民地のことを意味します。つまりジョージアン・コロニアル・スタイルとは、イギリスからアメリカに入植した人びとが現地での生活にあわせてつくっていったものなのです。レンガ積みの外壁や窓周りの装飾は重厚感を、左右対称の構造はバランスの良い印象を与えます。創立者であるC.K.ドージャーがなにを想ってこの様式を選んだのか、考えてみるのも一興ではないでしょうか。



窓の装飾と左右対称な概観



玄関周り軒下の装飾

博物館臨時職員 吉松由希

【大学博物館紹介⑩】

秋田大学附属鉱業博物館

西南学院大学では、2011年度より学内GP「大学博物館における高度専門学芸員養成事業-日中韓における大学博物館の機能と大学院生就業支援」のための調査を行っています。昨年度は関東、東北の大学博物館を調査・見学しました。今回は、その中から秋田大学附属鉱業博物館をご紹介します。

秋田大学鉱業博物館は、大学の前身、秋田鉱山専門学校創立100周年を記念して2011年10月1日にリニューアルオープンしました。地球と生命の歴史、資源・エネルギーと鉱業技術を展示テーマとし、鉱物、鉱石、宝石などが3000点以上公開されています。よく耳にする宝石から蛍光鉱物や放



射性鉱物など普段みることができない珍しい鉱物まで、その所蔵品は量のみならず質も国内屈指です。私自身、普段歴史博物館で勤務していることもあり、所蔵資料をはじめとする様々な違いから良い刺激をうけることができました。

よく自然博物館を訪れる方はもちろん、普段自然博物館に行く機会が少ない博物館ファンの方も楽しむことができる博物館だと思います。是非、足を運んでみてはいかがでしょうか。

博物館GP研究員 中尾祐太

開館時間 9:00~16:00
休館日 12月16日~1月5日
お問い合わせ 秋田市手形字大沢28番地の2 TEL 018-889-2461

所蔵品紹介

紅毛人プラケット 18世紀後半~19世紀初頭

近世日本を反映した長崎土産

これは紅毛人をモチーフとした小型の壁かけ(プラケット)で、たほう壁にかける大型の飾りをプラークといいます。江戸時代、日本から数多くのプラークやプラケットが輸出されましたが、個人的に特注されて製作されたこともあり。蒔絵技術による描写は18世紀後半に西洋で流行していたことから、出島オランダ商館員たちを通じて日本にもたらされたものと推定できます。原画をもとに蒔絵装飾されるプラケット(プラーク)は、今日にも数多く現存しています。海外の著名な名勝地の銅版画などをもとに描かれたが、精微な表現を可能としたこの技法は日本人職人の手によって数多く作られました。表面には小犬をひくオランダ人が描かれ、裏面には貿易のために来航した唐船が帰っている様子を表現した長崎八景のひとつ「神崎帰帆」が描かれています。表に紅毛人、裏に唐船といったまさに近世長崎、ひいては当時の日本の国際関係を反映させたもので、「長崎土産」のひとつといえます。



プラケット(表)

プラケット(裏)



長崎八景「神崎帰帆」

学芸員の眼 — 展示室模型 —

特別展を計画するとき、担当者レベルでは展示室の平面や立面レイアウト、模型などを使って資料の配置、人の導線、スペースなどに問題がないか検討していきます。展示会は担当者だけがわかっていけばいいというのではなく、ある程度、事前に特別展会場の様子を来館者にイメージしていただく工夫も必要です。本学博物館では、会期の2週間前前から次回特別展の会場風景に仕立てた模型を入り口に展示しています。1/10で再現された特別

展示室の模型で、計画している展示風景を再現し、資料のミニチュアもケースに入れて紹介しています。今度の展示会がどういったものか、来館者にビジュアル的に伝えていきます。会期が始まってからも、この模型をみて実際に展示をみるといった、事前学習的な効果もみられます。担当学芸員にとって、こうした準備をするのは大変ですが、少しでも多くの学生、卒業生、地域住民、観光客の皆さまに興味をもってもらえるように工夫しています。

博物館学芸員 安高啓明



博物館通信

2012年4月から6月までに行なった博物館活動や出来事のなかからいくつか紹介します。

🏠 2011年度は13,877名の入館者がありました。

👑 2012年度春季特別展「閉ざされた島 開かれた海-鎖国のなかの日本」は、船の科学館・海と船の博物館ネットワークからの支援が決まりました。

🏢 4月2日(月)、西南学院大学入学式が挙行されました。

🏠 4月23日(月)、2012年度新任職員研修を行いました。

🏠 4月25日(水)、三大学博物館館長会議(九州大学総合研究博物館・九州産業大学美術館・西南学院大学博物館)を行いました。

🏠 4月28日(土)、「博多学」受講学生35名が来館されました。

🏠 5月10日(木)、西南学院小学校の児童が来館されました。

🏠 5月18日(金)、久留米大学学生25名が来館されました。

🏠 6月2日(土)、「閉ざされた島 開かれた海-鎖国のなかの日本」が開催しました。



三大学博物館館長会議



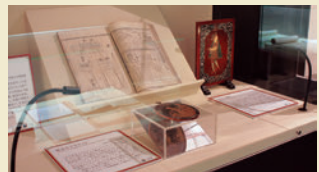
「博多学」学生来館



西南学院小学校児童の来館



久留米大学学生の来館



特別展風景

スタッフの声

新年度が始まり、新しい環境でのスタートを切る人も少なくないと思います。西南学院大学でも多くの新入生が入学するとともに、言語教育センター棟という新しい施設が完成し、2012年度から講義が行われています。言語教育センター棟には西南学院大学博物館の収蔵庫が設置されています。最新の技術が導入されており、文化財の保存に適した素晴らしい収蔵庫です。

このような新しい施設に反して、西南学院大学博物館は西南学院の中でも最も古い施設であり、福岡市の有形文化財にも指定されています。博物館は趣のあるレンガ建築であり、博物館の施設自体も文化財であり、展示室ということができます。

その博物館にも新スタッフが3名加わり、業務を担当することとなりました。まだ業務を覚えることに必死ですが、来館者の皆様に気軽に足を運んでいただける博物館運営に努めて参ります。近くいらっした際は、ぜひ来館ください。

博物館臨時職員 高橋幸作

【大学周辺情報⑩】
季節を彩る憩いの場 本館前広場

大学正門をくぐってすぐ、2012年4月にオープンした言語教育センターの前には、季節の草花が彩る花壇と広場があります。1992年にキャンパスの緑地化が行われ、駐車場から現在の姿になりました。広場のまわりにはキリストイバラやセイヨウツタをはじめとする聖書植物も植えられています。2016年に西南学院は創立100周年を迎えます。これからも学生のみならず地域の皆さんの憩いの場として、キャンパスの歴史をこの広場が見守ってくれることでしょう。

博物館臨時職員 貞清世里

